

第32回田原市市民協働まちづくり会議 議事録要旨

1 日 時	令和4年3月23日（水）午後3時～5時
2 場 所	田原市役所政策会議室
3 出席者	<p>【委員】 渡会美加子、橋本聡恵、樋口雄士、中内田卓也、鳥居和子、小澤美穂子、高崎雄三、木村俊晴、石川恵史、藤井吉隆</p> <p>【事務局】 松井課長、河口課長補佐兼係長、下形主事補</p>
4 連絡事項	<p>1 あいさつ</p> <p>2 報告事項</p> <p>（1）令和3年度市民活動支援制度の活用状況について</p> <p>（2）令和4年度の市民活動支援制度(案)について</p> <p>（3）市民活動支援センターの運営について</p> <p>（4）市民活動だよりについて</p> <p>（5）企業ボランティアについて</p> <p>3 その他</p> <p>（1）各主体の取り組み（委員連絡票）</p> <p>（2）意見交換等</p> <p>・市民協働まちづくり方針の見直しに向けて</p>

会議内容要旨

事務局：会議資料の確認

1 あいさつ

○会長よりあいさつ

2 報告事項

（1）令和3年度市民活動支援制度の活用状況について

○事務局：資料1について説明

《委員からの質疑・意見》

・コロナ禍の影響もあり、補助金制度の応募団体が少ないように見える。今後の対応で何か考えていることがあればお聞きしたい。

→平常時だと1・2件あったものが、コロナ禍をきっかけに相談がなくなった傾向にある。また、新規団体枠・チャレンジ枠は新しい取組を支援するもの。コロナ禍により、人が集まって新しく活動を始めることに制限があるため、応募がなかったと思われる。人材養成枠に関しては、移動制限の中で研修自体が対面で開催されていない場合がある。世の中の動きが活発になれば応募が増えてくると考えられるが、制度の周知に力を入れつつ、今後の世の中の流れを見極めながら、制度のあり方を検討していきたい。

(2) 令和4年度の市民活動支援制度(案)について

○事務局：資料2について説明

《委員からの質疑・意見》

- ・状況を見極めながら補助金制度を検討することについて詳しく伺いたい。
- 利用しやすいように制度を改善しているが、時代に合っているか等については、今後必要に応じて検討できたらと思う。まずは、制度を変更せずに運用していきたいと考えている。また、新規団体枠・チャレンジ枠は新規の活動に対する支援ということで、皆さんの組織や身近な方に周知していただけるとありがたい。
- ・使い勝手という点において、利用者の方から意見や要望が出ているか。
- 交付回数に制限を設けず使いたい等の意見をいただいたことがある。しかし、当制度は団体の運営を永久に支援するものではなく、裾野を広げていくためのスタートアップ支援が目的。様々な財源を確保してもらい、自立を促すのがテーマであるため、そこを変えることは難しい。元々、補助金のない分野に条例・方針をつくって補助していこうと設立されたもの。市役所の補助金であるため、一定の書類や審査が必要になるが、要綱に則りながら、もう少し柔軟な運用ができるか今後の課題にできたらと思う。要望等があれば、ご意見いただきたい。
- ・応募が少ないので、盛り上げるための工夫が必要だと思う。大学の地域貢献活動では、約20団体が動いている。コロナ禍のため、計画通り活動することは難しいが、今後の活動についてしっかり考えを深めながら、オンラインでできることを模索してきた。コロナ禍でも活動が継続できるような工夫があってもいいのかなと思った。
- 補助金制度では、市民であることや、市内に主な事務所がある団体が対象となるが、コミュニティを始め、各種団体と手が組めないか、紙面やSNSで情報提供等を進めていきたい。

(3) 市民活動支援センターの運営について

○事務局：資料3について説明

《委員からの質疑・意見》

- ・市民館に出向く活動について詳しく知りたい。
- 地域の市民活動の状況等についてヒアリングしているもの。中部・衣笠市民館に訪問したが、引き続き他の市民館にも伺いたい。
- ・衣笠市民館での意見交換の様子は。
- 衣笠では特に困り事はないと伝えた。コミュニティ活動の担い手が少なくなっており、活動が縮小していることが懸念事項としてある。
- ・コミュニティでは月々の計画を立てるのが大変と聞いたことがある。ヒアリングの場に主事の方にも同席してもらうのはどうか。

(4) 市民活動だよりについて

○事務局：市民活動だよりについて説明

(5) 企業ボランティアについて

○事務局：資料5について説明

《委員からの質疑・意見》

- ・ これまでに、市民活動団体から手伝ってほしいことの要望や意見が届いたことはあるか。
- 要望・意見等いただいたことは特にない。
- ・ 折り紙は市民館まつりを始め、イベントの景品として活用ができると思う。

3 その他

(1) 各主体の取り組み（委員連絡票）

(2) 意見交換等

○ 市民協働まちづくり方針の見直しに向けて

… 来年度中間評価を行う。6つの指針の項目立てになっているが、市民活動全般に関して感じていることを自由にご意見いただきたい。

- ・ 年齢が高いため活動を辞めたり、会自体を解散したりと団体が減ってきたように感じる。徐々に先細りになっているのが今の状態で、もう少し皆が手をつないでいけるような地域になってほしいと思う。
- ・ 若い世代を含めた市民活動への参画の促進が課題。
- ・ 高齢化で活動する人が増える気がしないでもないが、実態を見ると先細り感がある。1つの団体で様々な活動を行うことが難しいので、他の団体とのコラボ活動が多くなった印象。実際、ロータリークラブやJC等は他の団体と協力する機会が増えた。
- ・ つながりをつくっていくためには、誰がコーディネートするかも重要だと思うので、そうした視点を含めて今後の方向性を考えていくといいのではないかと感じた。
- ・ 活動が落ち込んでいることに対しては、行政も責任を感じないといけないと思う。行政が情報の提供及び発信をする方を育成する必要がある。発信の場としては、市のインスタグラムを活用してもらえばいいと思う。たはら暮らしのハッシュタグをつけて様々なものが発信される中で、興味のある人をつなぎ合わせられるよう行政も努力していく。時代に合った周知や人の発掘等を今後進めていかなければならない。
- ・ 町内会の役員もそうだが、最近は高齢で働く人もいることから、役を引き受けてもらうことが難しい。一番有効だと感じるのが、友だちによる声かけで、役を一緒にやってもらい、町内の行事に携わることに慣れてもらうこと。自分もそうだったが、地域のためという意識があったので、町内活動にすんなり入っていくことができた。コミュニティの中にも様々な部会があり、参加している人たちも、最初の顔つきに比べると楽しそうにやっている。情報誌を配られても、なかなか目を通すことはない。市民活動・町内活動の入口として、参加している人に、手を引っ張られながら活動に慣れてもらうことが一番入りやすいと思う。慣れてもらいながら、活動を理解してもらうのがいい。
- ・ 共通していたのが人。高齢化による先細りの中で、いかに地域が豊かになるか対策を考えていけないといけない。引き込むためのきっかけづくりや情報発信をどうするのか、様々な観点から対策を講じていくことが今後を見据えた時に重要になってくる。

午後5時閉会